

【別紙 13】

橋梁定期点検業務 特記仕様書

1 適用

本特記仕様書は、橋梁定期点検業務（以下、「本業務」という。）に適用する。

本特記仕様書に記載していない事項については、「設計業務等共通仕様書（令和●年●月広島県）」（以下、「共通仕様書」という。）によるものとする。

※●は各年度で最新の年月とする。

2 適用の範囲

本業務の適用の範囲は次のとおりとする。

- （1）三原市が管理する三原地域内の橋梁とする。
- （2）本業務は広島県橋梁定期点検要領（令和6年9月 広島県道路整備課）（以下、「定期点検要領」という。）に基づき実施する定期点検業務に適用する。

3 対象橋梁数

定期点検の橋梁数は次のとおりとする。

令和8年度	令和9年度	令和10年度	合計
30 橋	93 橋	79 橋	202 橋

4 施設点検業務実施計画書

受注者は、契約後速やかに点検の実施体制を整えて、必要な資料の収集、現地踏査計画を検討し、共通仕様書第 1112 条に基づき、施設点検業務実施計画書を作成し、監督員と協議了承後に提出するものとする。

なお、共通仕様書第 1112 条の事項に加え、次の事項を記載するものとする。

- （1）安全管理計画
- （2）関連資料貸与請求一覧表

ただし、現地踏査の結果等により、内容に変更が生じた場合は、変更業務計画書を提出するものとする。

5 作業区分

本業務の作業区分は次によるものとする。

- （1）作業区分 昼間作業
- （2）施工区分 現場作業及び内業

ただし、現場条件等により作業区分に変更を要する場合、監督員と協議するものとする。

6 点検計画準備

点検に先立って、発注者から指定された本業務の対象となる施設についての資料収集及び点検計画を考案する。

なお、施設の状況（現地の交通状況、点検に伴う交通規制の必要、現地調査不可能等）により点検作業が出来ないと考えられる場合には、監督員と協議するものとする。

7 実施計画書作成

受注者は、作業上必要な資料収集をした上、実施計画書を作成し、監督員に提出するものとする。実施計画書には次の事項を記載するものとする。

- （1）対象位置図
- （2）業務実施方針（点検方法）
- （3）実施体制
- （4）実施工程表
- （5）安全管理計画（交通規制を含む）
- （6）新技術の活用検討
- （7）その他調査職員が必要と認めたもの

なお、4 業務計画書と重複する場合は、それを省略できる。

8 点検に係る班編制および資格要件

点検の班編制は、3名（点検技術者、点検員、点検補助員）で編成することを基本とする。健全性の診断（部材単位の診断）において適切な評価を行うために、点検を行う者は施設の構造や部材の状態の評価に必要な知識および技能を有することが必要であるため、資格要件は次の通りとする。

なお、点検を行う者の資格要件は別紙「資格要件に関する調書」で提出すること。

（1）点検技術者

次の要件を有するものとする。

- ・ 橋梁の診断に関する相応の資格^{※1}

※1：橋梁の診断に関する相応の資格については次に掲げる資格のいずれかとする。

- ①技術士（総合技術監理部門：建設部門関連科目、又は、建設部門）
- ②RCCM（道路又は鋼構造及びコンクリート）
- ③「国土交通省登録技術者資格」（施設分野：橋梁（鋼橋）-業務：診断）、
又は、（施設分野：橋梁（コンクリート橋）-業務：診断）

（2）点検員

次の要件を有するものとする。ただし、点検技術者が次の要件を有する場合は、点検員に次の要件を求めない。

- ・ 橋梁の点検に関する相応の資格^{※2}または相当の実務経験^{※3}

※2：橋梁の点検に関する相応の資格については次に掲げる資格のいずれかとする。

①技術士（総合技術監理部門：建設部門関連科目、又は、建設部門）

②RCCM（道路又は鋼構造及びコンクリート）

③「国土交通省登録技術者資格」（施設分野：橋梁（鋼橋）-業務：点検）、
又は、（施設分野：橋梁（コンクリート橋）-業務：点検）

※3：実務経験については、広島県の点検要領に基づく点検の実務経験を有する者とする。

（3）点検補助員

要件は特になし

9 現場点検

現場点検に際しては、次の項目に留意するものとする。

（1）監督員の立会い

受注者のみの点検時に、点検方法等で判断を迷う事態が生じた場合は、監督員等の立会いを求め、その指導等に従い点検を行うものとする。

（2）地元関係者との調整

点検に伴う通行規制等、必要に応じて、自らの費用負担及び責任において、地元関係者との調整を行わなければならない。

（3）緊急対応が必要と判断される場合は、直ちに監督員に報告するものとする。

（4）点検等の効率化を図る新技術の活用について検討すること。

10 点検結果取りまとめ

（1）点検評価

定期点検要領に基づき評価する。

（2）点検データファイル（Access）

点検結果を、別途貸与する点検データファイル（Access）に入力することにより、データ作成を行うものとする。

11 再委託

再委託にあたっては、発注者の承諾を得なければならない。

12 成果品資料作成

本業務の成果品は、共通仕様書第 1117 条第 1 項で示すほか、次に示すものとする。提出時期は、令和 8 年度は 2 月末、令和 9 年度以降は 1 月末までとする。

（1）点検調書の電子データ 各 2 部

（2）点検結果一覧表（所定の様式）

- (3) その他調査職員の指示した資料

13 貸与資料

共通仕様書に定める発注者が貸与する図書その他資料は次のとおりとする。

- (1) 既存点検資料
- (2) 既存補修設計資料

その他業務履行上必要な発注者の所有する資料について貸与するものとする。

14 その他

- (1) 本業務の点検結果（点検調書）は、公表の対象となるため、点検者名は施設点検業務実施責任者とする。
- (2) 健全度判定Ⅳと判断する場合は、必ず発注者と協議をすること。
- (3) 橋梁点検車等が必要な橋梁について、通行止め等が発生しないよう、新技術の活用について検討すること。